

平成25年度第1回 かわさき市民アンケート 概要版

調 査 の 概 要

調査設計等	◆調査対象 川崎市在住の満20歳以上の男女個人 ◆標本数 3,000 標本 ◆標本抽出 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出	◆調査方法 郵送法 ◆調査期間 平成25年7月26日（金）～8月16日（金） ◆有効回収数 1,407 標本 ◆有効回収率 46.9%
調査項目	1 情報化の動向について 2 自転車の利用状況および自転車走行ルール等の認識について	3 スポーツについて 4 文化・芸術の振興について 5 生涯学習について

※ 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調 査 回 答 者 の 属 性

1 性別

	基 数（人）	構成比（%）
1 男性	565	40.2
2 女性	805	57.2
（無回答）	37	2.6
合 計	1,407	100.0

2 居住区別

	基 数（人）	構成比（%）
1 川崎区	175	12.4
2 幸区	160	11.4
3 中原区	237	16.8
4 高津区	197	14.0
5 宮前区	218	15.5
6 多摩区	184	13.1
7 麻生区	201	14.3
（無回答）	35	2.5
合 計	1,407	100.0

3 性／年代別

	全体		男性		女性		無回答	
	基 数（人）	構成比（%）	基 数（人）	構成比（%）	基 数（人）	構成比（%）	基 数（人）	構成比（%）
1 20歳代	119	8.5	45	8.0	73	9.1	1	2.7
2 30歳代	288	20.5	100	17.7	187	23.2	1	2.7
3 40歳代	300	21.3	117	20.7	183	22.7	－	－
4 50歳代	236	16.8	101	17.9	134	16.6	1	2.7
5 60歳代	235	16.7	113	20.0	122	15.2	－	－
6 70歳以上	197	14.0	87	15.4	106	13.2	4	10.8
（無回答）	32	2.3	2	0.4	－	－	30	81.1
合 計	1,407	100.0	565	100.0	805	100.0	37	100.0

1 情報化の動向について

1 インターネットの利用状況

インターネットの利用頻度を聞いた。「毎日少なくとも1回」(60.2%)が約6割となっている(図1)。

また、頻度を問わず「インターネットを利用する」と回答した人に、インターネットを利用する目的と、そのときに使用する機器が何かを聞いた(図2)。

「ホームページを閲覧し、情報収集を行うため」に「パソコンを使用する」(76.9%)が最も高く、次いで「ネットショッピングやオークションを利用し、売り買いを行うため」に「パソコンを使用する」(50.1%)となっている。

図1 n = (1, 407)

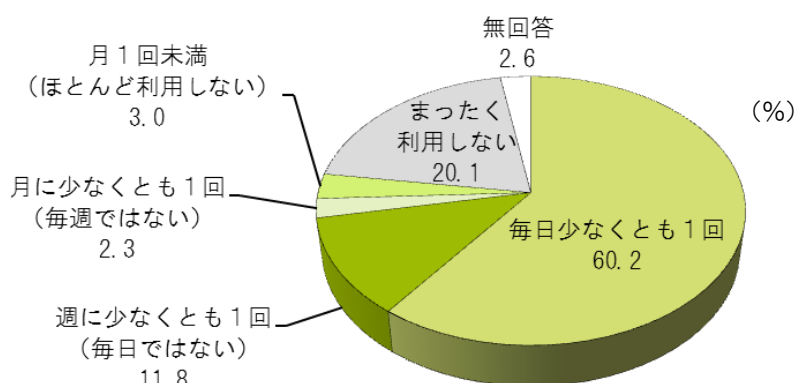
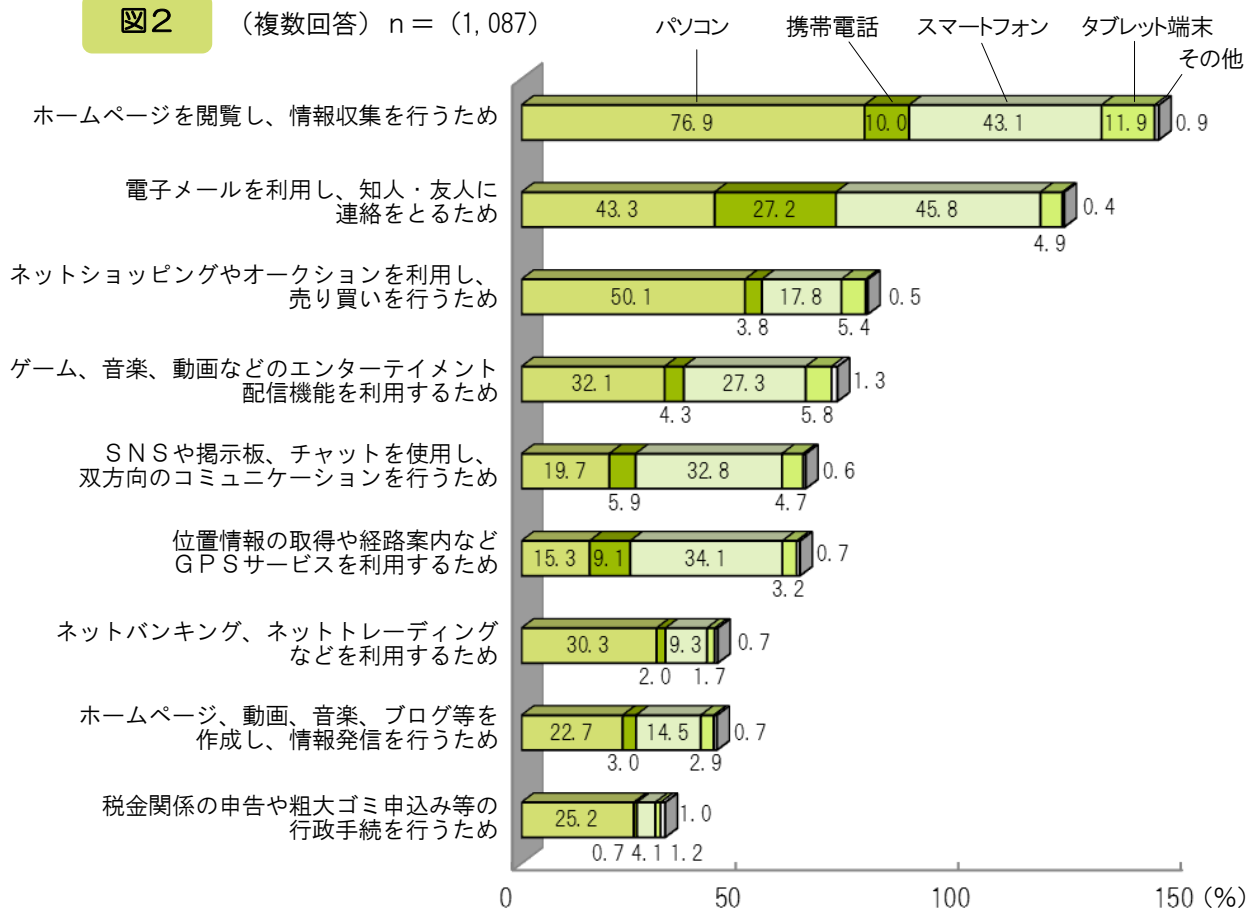


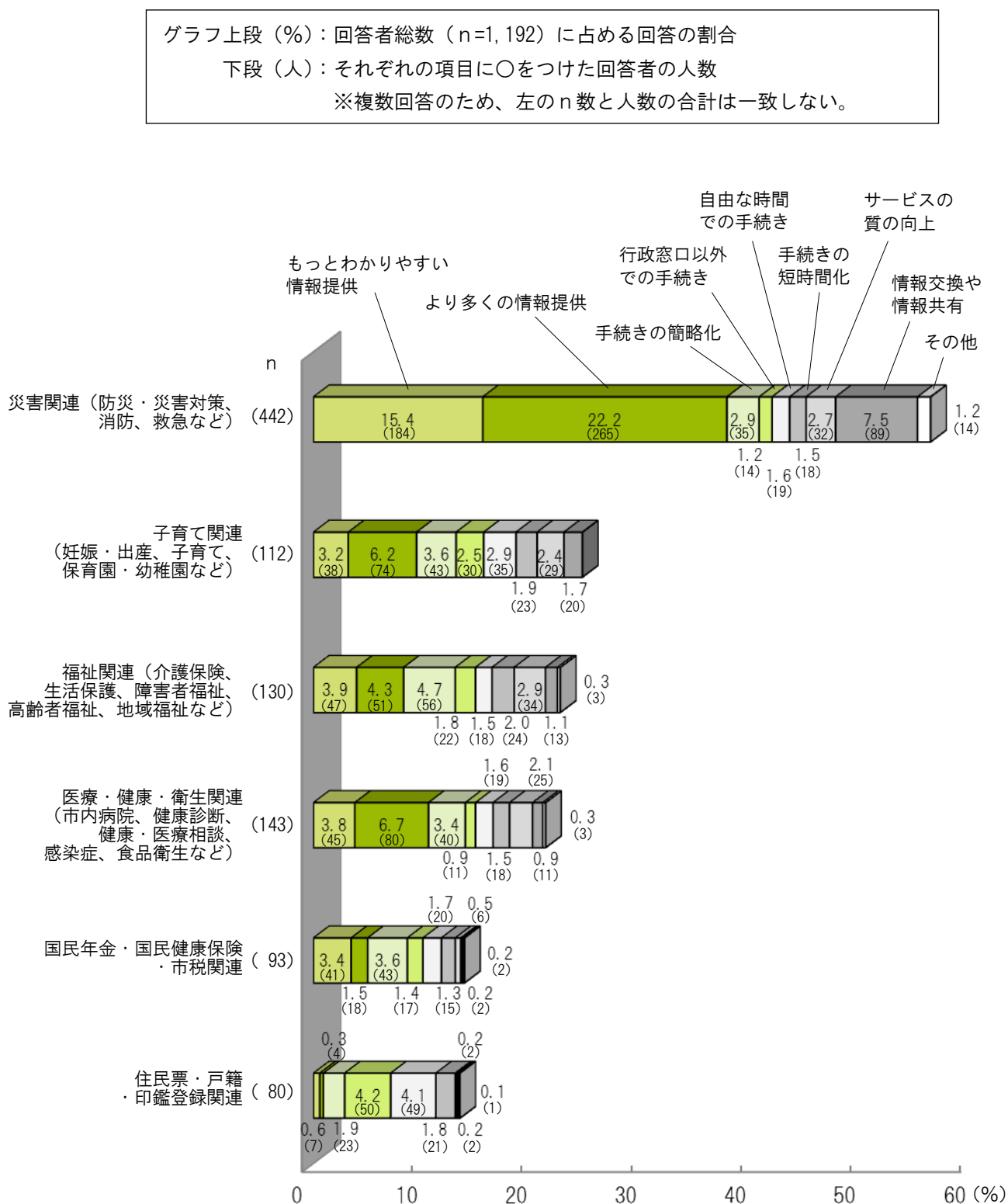
図2 (複数回答) n = (1, 087)



2 情報化を進めてほしい分野とその具体的な内容

最も情報化を進めてほしい分野と、その具体的な内容を聞いた(図3)。「災害関連(防災・災害対策、消防、救急など)」の分野で「より多くの情報提供をしてほしい」(22.2%)が約2割で最も高く、次いで同分野の「もっとわかりやすい情報提供をしてほしい」(15.4%)となっている。

図3 (複数回答、上位6項目)



2

自転車の利用状況および自転車走行ルール等の認識について

1 自転車の利用状況

自転車を利用しているか聞いた（図4）。「利用している（頻度にかかわらず）」（55.2％）が5割台半ばとなっている。

また、「利用している（頻度にかかわらず）」と回答した人に、利用する目的を聞いた（図5）。「買い物」（50.5％）が約5割と最も高く、次いで「通勤・通学で駅に行くため」（11.6％）、「余暇活動（遊びに行く、サイクリング等）」（11.1％）となっている。

同じく「利用している（頻度にかかわらず）」と回答した人に、おおよその走行時間を聞いた（図6）。「15分以上30分未満」（40.7％）が約4割で最も高く、次いで「15分未満」（29.9％）、「30分以上1時間未満」（20.2％）となっている。

図4 n = (1, 407)

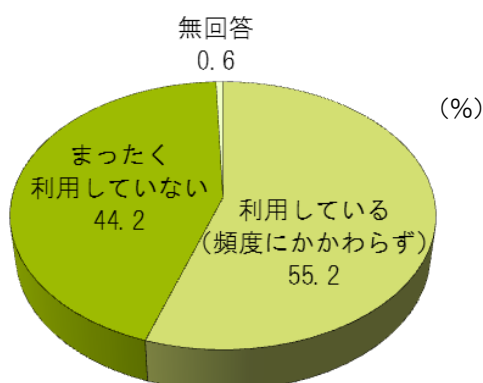


図5 n = (776)

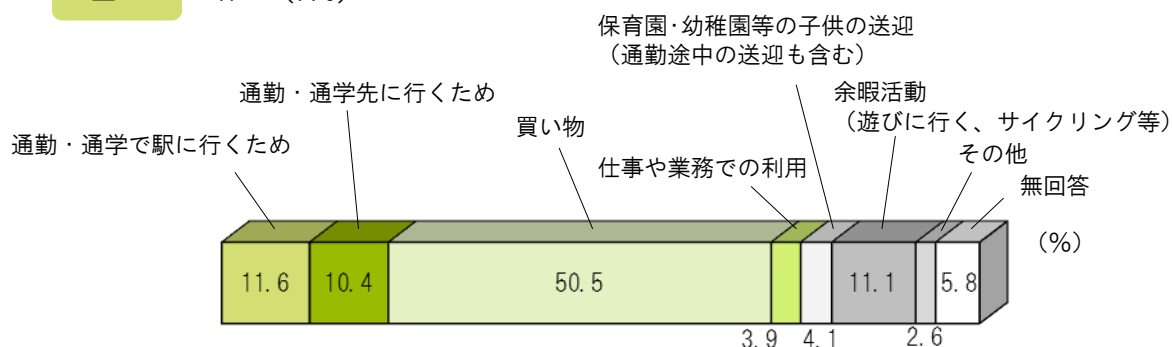
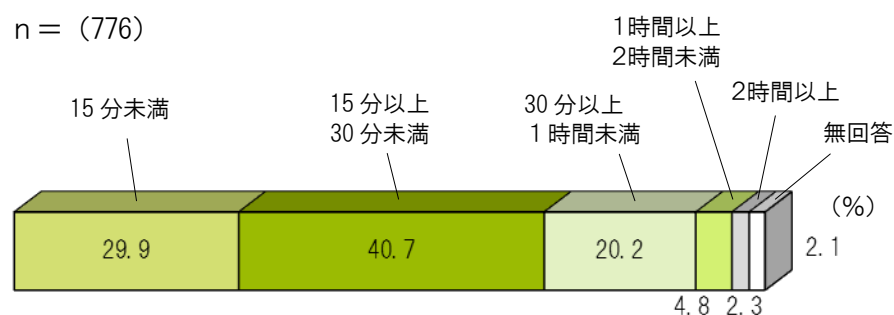


図6 n = (776)



2 自転車利用に関する交通ルールの認知と遵守

自転車利用に関する交通ルールの認知状況を聞いた（図7）。『知っている』は、「携帯電話を使用したり、傘を差したりすること等による片手での自転車運転は、不安定になるのではいけない」（91.3%）と「信号の遵守、一時停止場所での停止、安全確認を行い走行しなければならない」（90.9%）が約9割で高くなっている。

また、自転車を利用している人に交通ルールの遵守について聞いた（図8）。『守っている』は、「イヤホンで音楽を聴く等により、安全運転に必要な音が聞こえない状態で運転してはならない」（86.2%）が最も高く、次いで「自転車同士は並んで走ってはいけない」（72.9%）となっている。

図7 n = (1, 407)

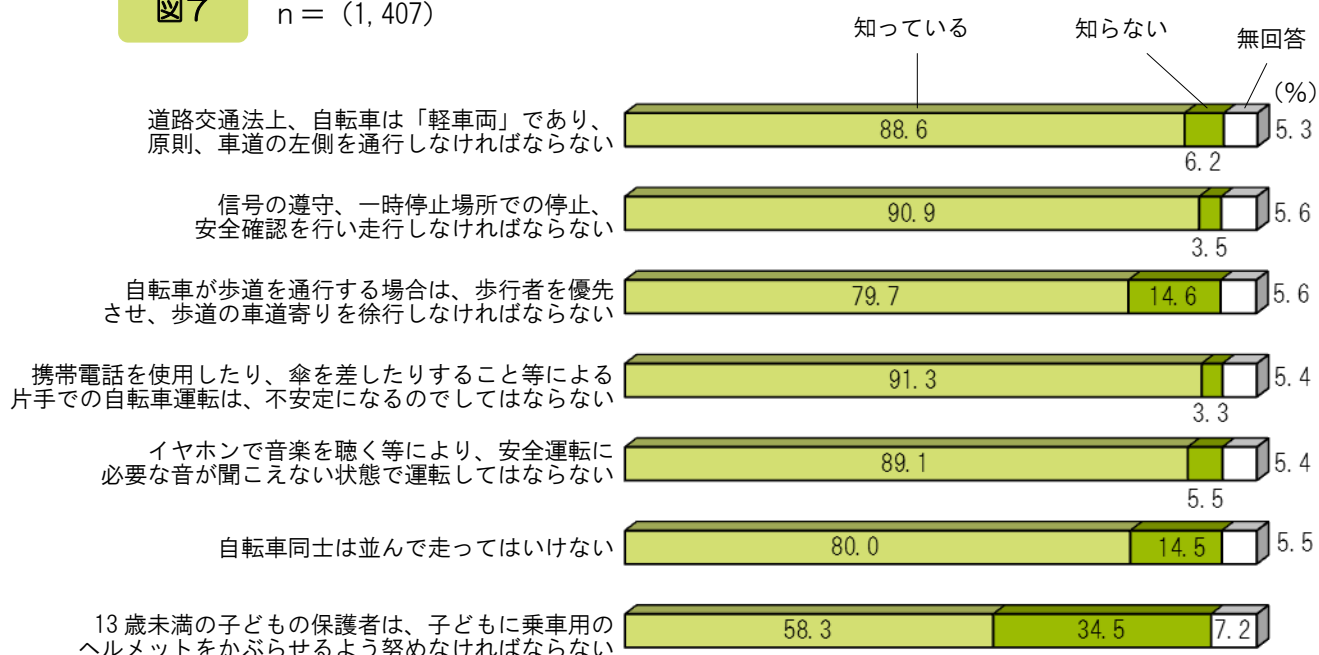
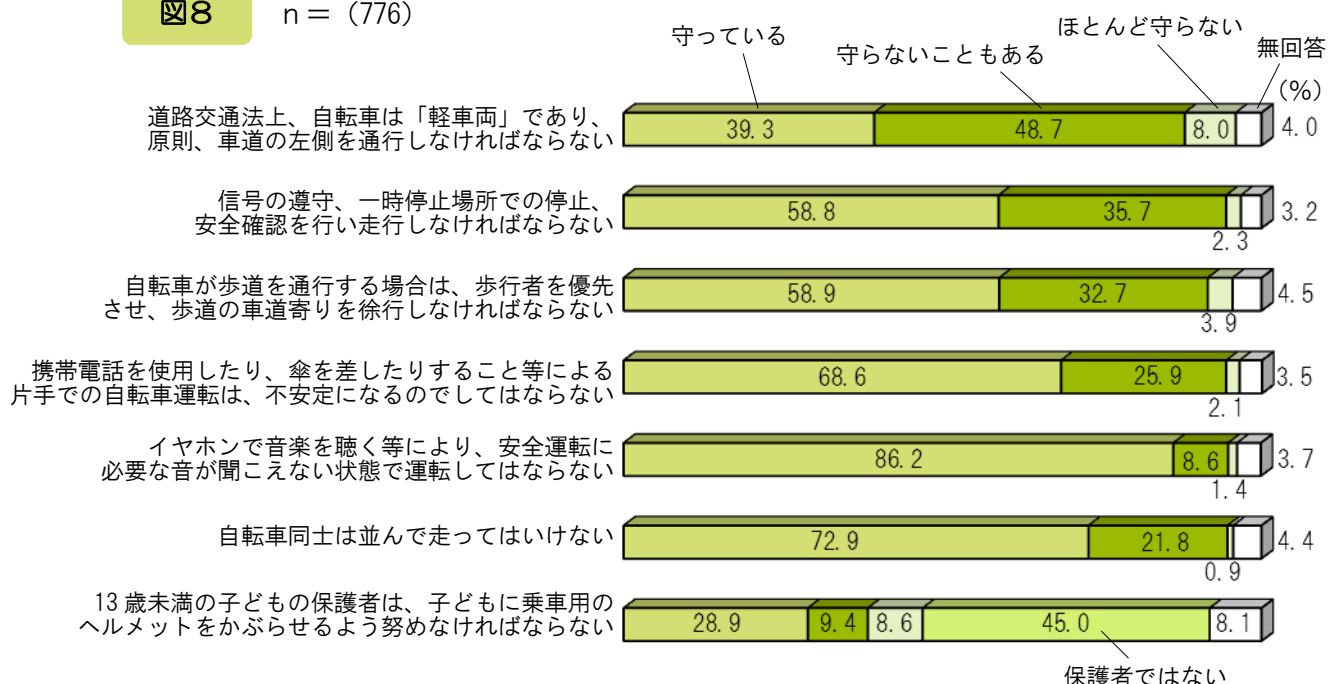


図8 n = (776)



3 スポーツについて

1 スポーツの実施状況

過去1年間のスポーツの実施状況を聞いた。スポーツを「した」(65.8%)は6割台半ばで「しなかった」(32.0%)の2倍以上となっている。

スポーツを「した」の中では、「週1～2日程度」(21.9%)が最も高く、次いで「月1～3日程度」(18.3%)、「週3日以上」(13.3%)となっている(図9)。

また、「した」と回答した人に、実施したスポーツが何かを聞いた(図10)。「ウォーキング、散歩」(68.9%)が最も高く、次いで「軽い体操(ラジオ体操、親子体操、エアロビクスなど)」(34.0%)、「室内トレーニング(ダンベル・チューブなどの器具を使う運動)」(21.8%)となっている。

図9 n = (1,407)

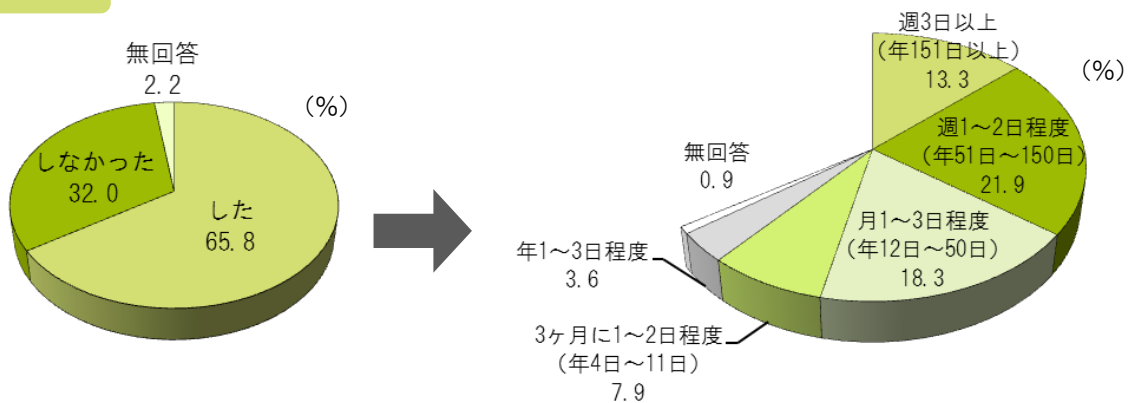
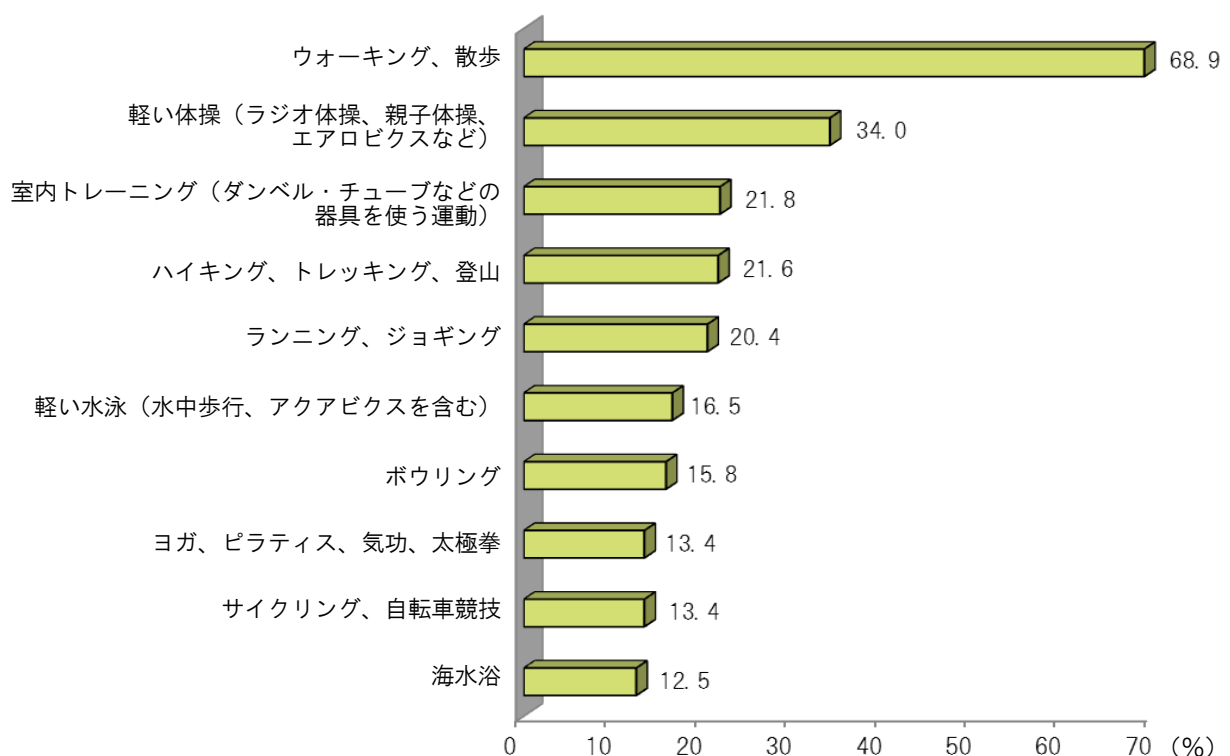


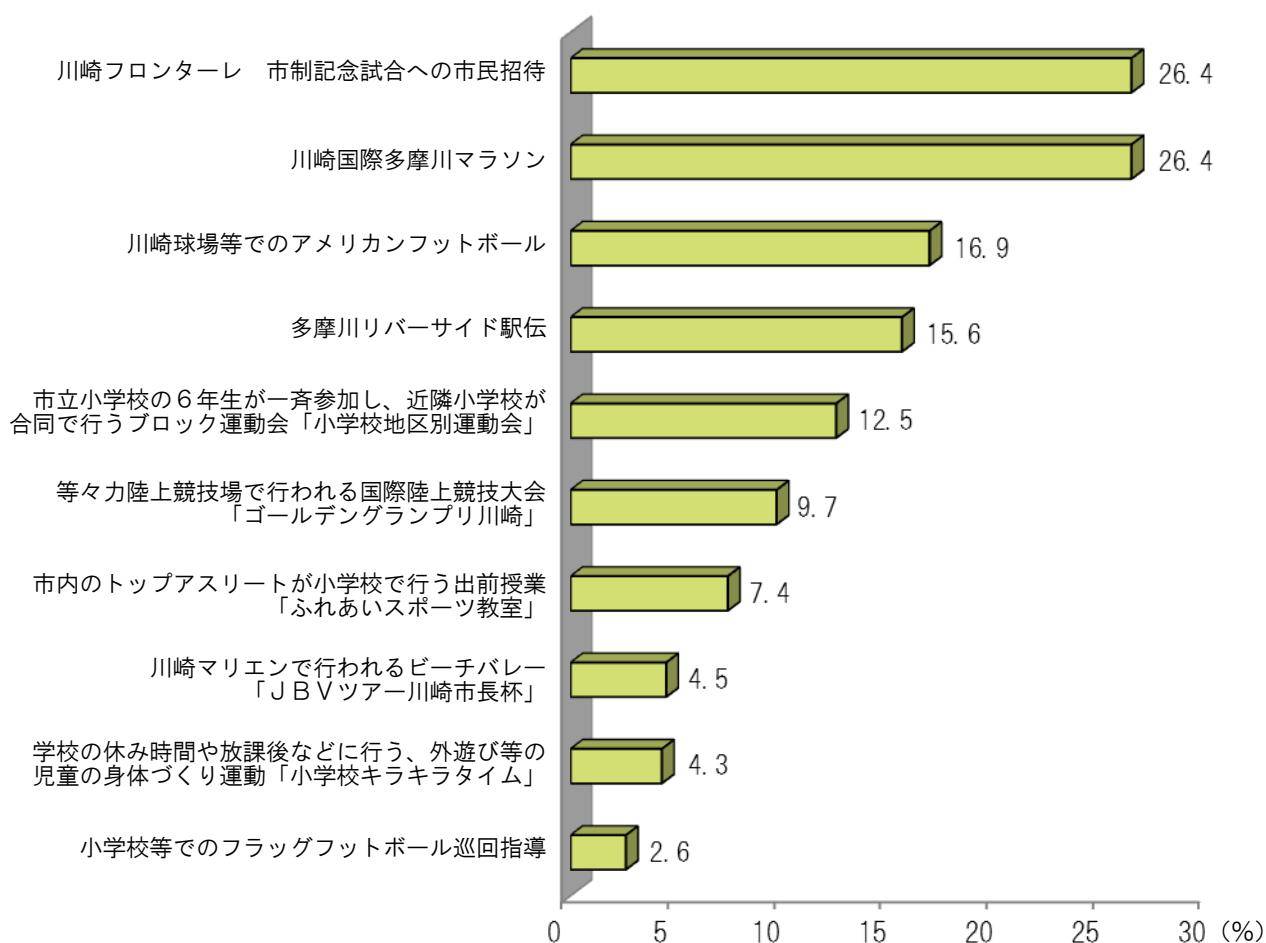
図10 (複数回答、上位10項目) n = (926)



2 市が進めてきたスポーツ事業・イベントの認知状況

市が進めてきたスポーツ事業・イベントの認知状況を聞いた（図 11）。「川崎フロンターレ 市制記念試合への市民招待」「川崎国際多摩川マラソン」（各 26.4%）がそれぞれ2割台で最も高く、次いで「川崎球場等でのアメリカンフットボール」（16.9%）、「多摩川リバーサイド駅伝」（15.6%）となっている。

図 11 （複数回答、上位 10 項目） n = (1, 407)



4 文化・芸術の振興について

1 市の文化事業および文化施設の認知状況

市の文化関係事業の認知状況を聞いた（図 12）。「区民まつり」（44.3%）が4割台半ばと最も高く、次いで「市民まつり」（32.7%）、「KAWASAKI しんゆり映画祭」（23.2%）となっている。

また、市の文化関係施設の認知状況を聞いた（図 13）。「藤子・F・不二雄ミュージアム」（70.6%）が約7割と最も高く、次いで「岡本太郎美術館」（65.2%）、「日本民家園」（57.7%）となっている。

図 12 （複数回答、上位 10 項目） n = (1, 407)

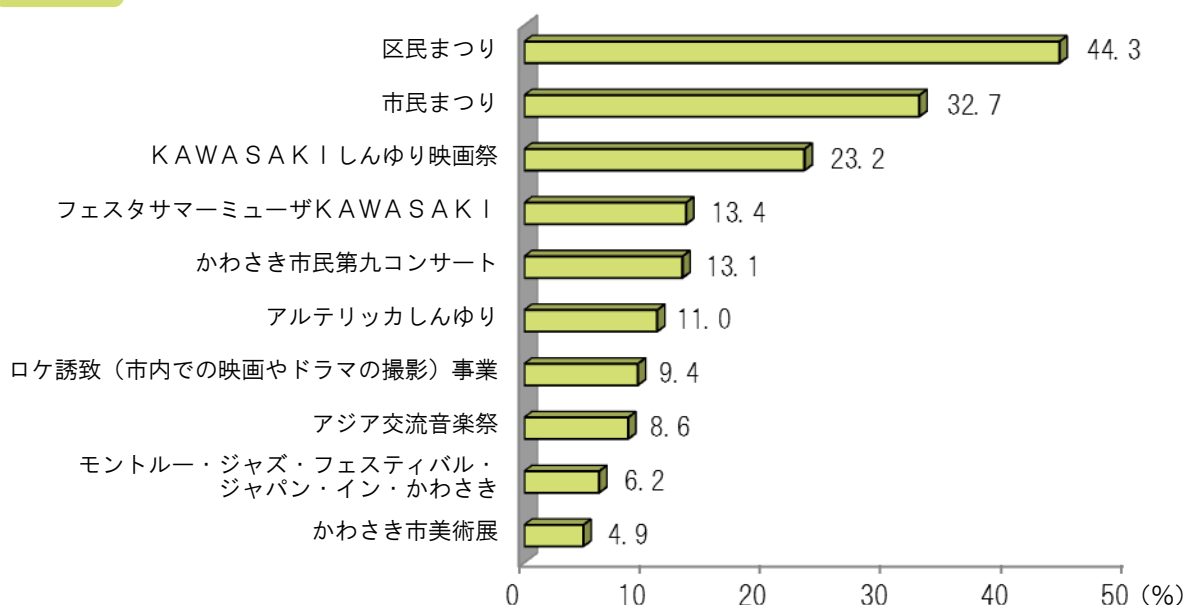
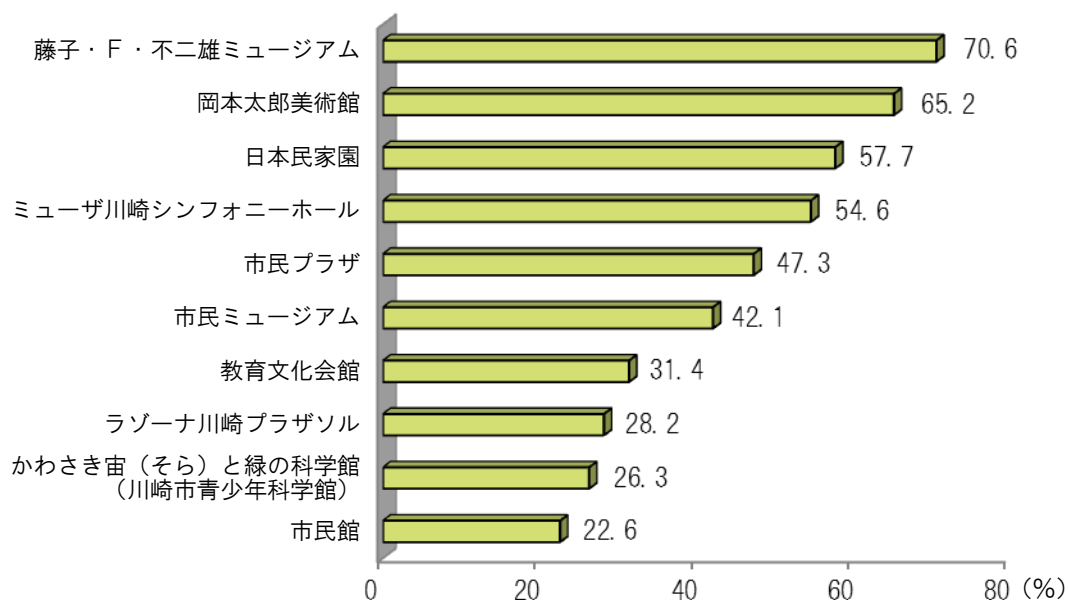


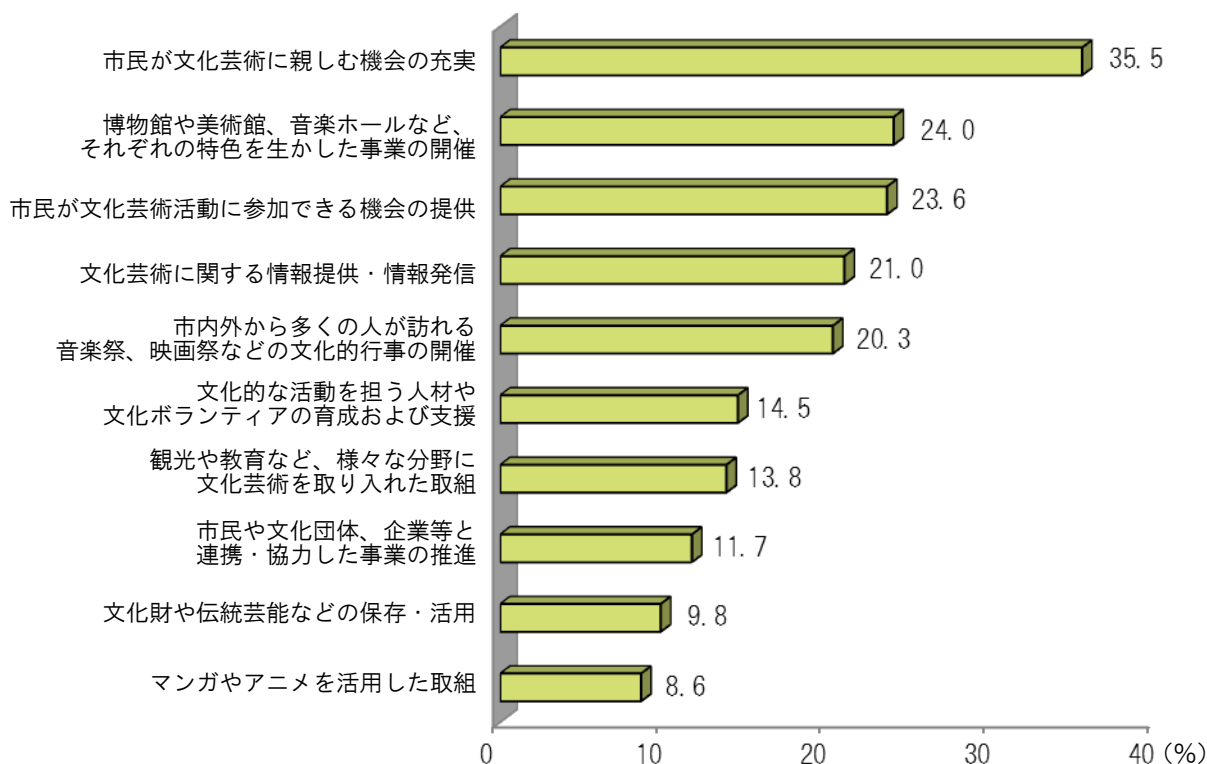
図 13 （複数回答、上位 10 項目） n = (1, 407)



2 文化芸術の振興のために市に力を入れてほしいこと

文化芸術を振興していくために、市に力を入れてほしいことを聞いた（図 14）。「市民が文化芸術に親しむ機会の充実」（35.5%）が3割台半ばと最も高く、次いで「博物館や美術館、音楽ホールなど、それぞれの特色を生かした事業の開催」（24.0%）、「市民が文化芸術活動に参加できる機会の提供」（23.6%）となっている。

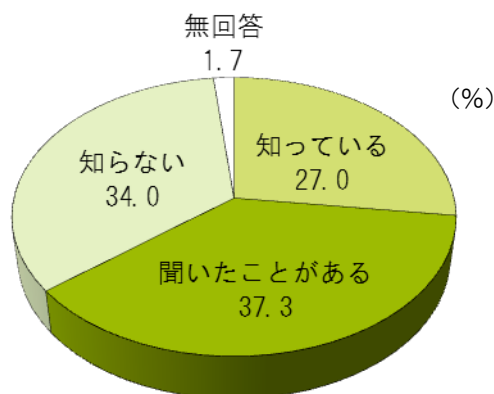
図 14 （複数回答、上位 10 項目） n = (1, 407)



3 「音楽のまち・かわさき」の取組の認知状況

「音楽のまち・かわさき」の取組の認知状況を聞いた（図 15）。「知っている」（27.0%）と「聞いたことがある」（37.3%）をあわせた＜知っている＞（64.3%）は6割台半ばとなっている。一方、「知らない」（34.0%）は3割台半ばとなっている。

図 15 n = (1, 407)



5 生涯学習について

1 生涯学習の実施状況

この1年間の生涯学習の実施状況を聞いた(図16)。「はい(生涯学習をした)」(28.9%)は2割台後半となっている。一方、「いいえ(生涯学習をしていない)」(67.4%)が6割台後半となっている。

また、「はい」と回答した人にこの1年間で取り組んだ生涯学習活動を、「いいえ」と回答した人に今後取り組んでみたい生涯学習をそれぞれ聞いた(図17)。

この1年間で取り組んだ生涯学習としては、「健康やスポーツに関すること」(46.3%)が最も高く、次いで「趣味的なもの(音楽、美術、舞踊、華道、書道、写真など)」(38.7%)、「資格の取得や仕事に必要な知識に関すること」(30.0%)となっている。

今は取り組んでいないが今後取り組んでみたい生涯学習としては、「健康やスポーツに関すること」(47.8%)が最も高く、次いで「趣味的なもの(音楽、美術、舞踊、華道、書道、写真など)」(43.9%)、「教養的なもの(文学、歴史、語学、科学など)」「家庭生活に役立つ技能(料理、裁縫、編み物など)」(各24.1%)となっている。

図16 n = (1, 407)

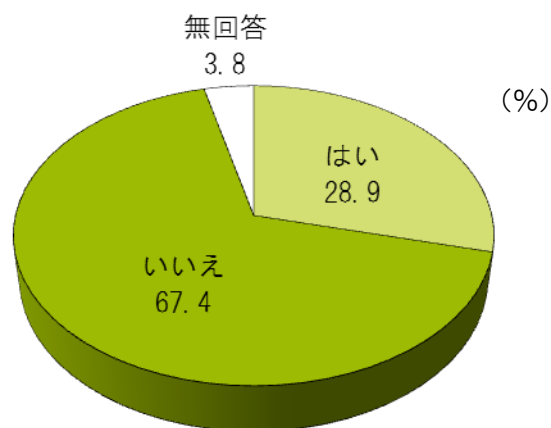
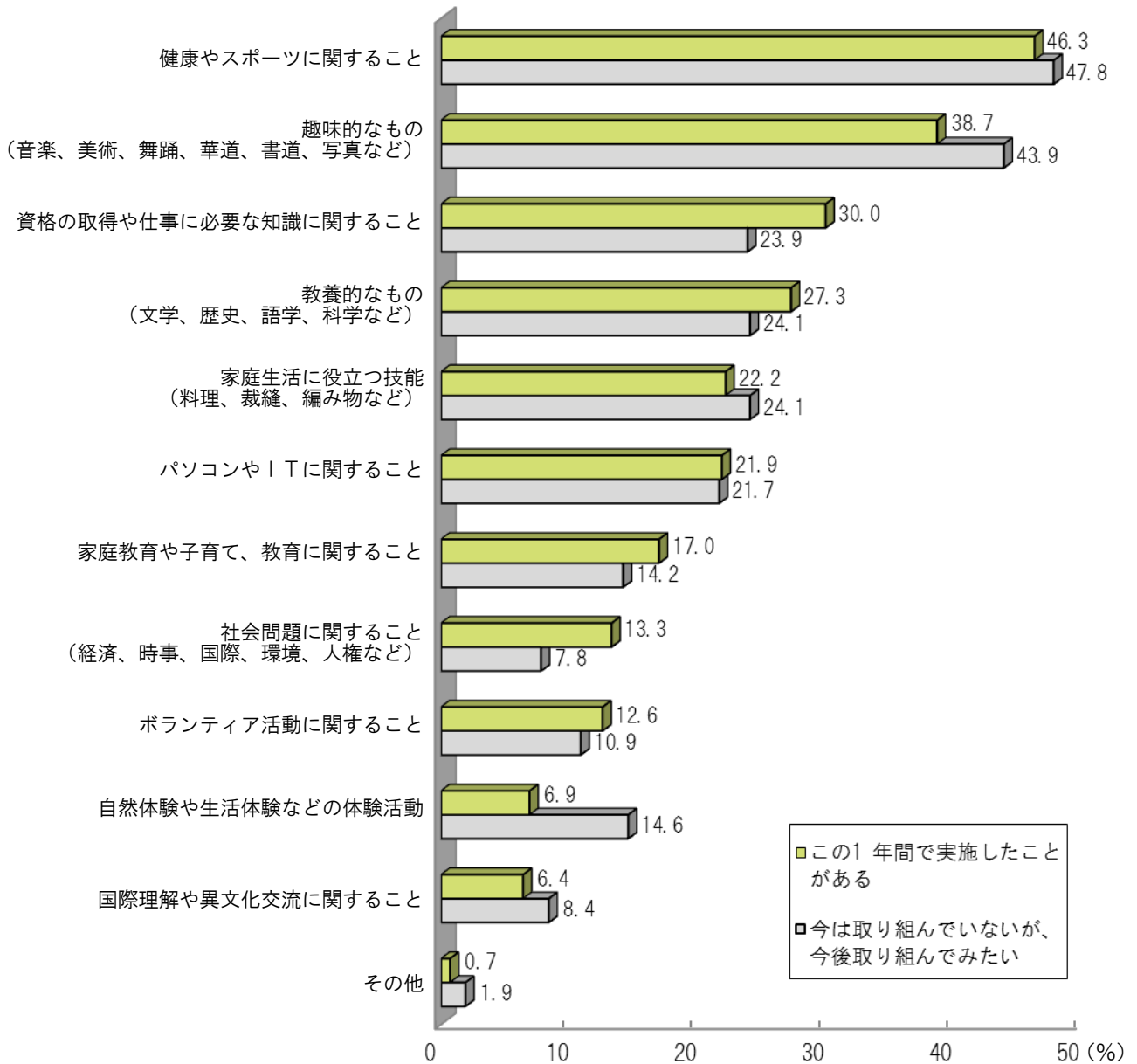


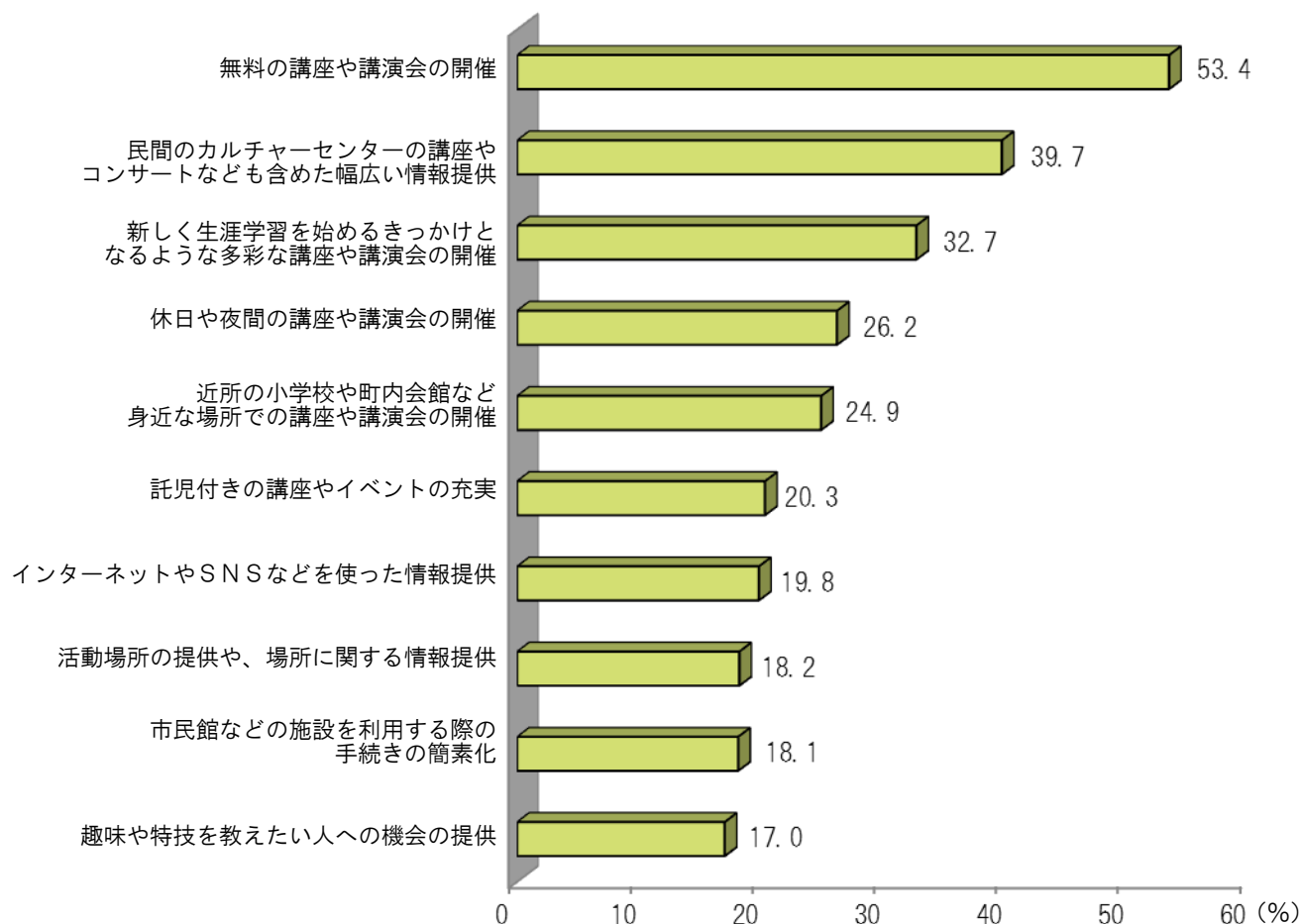
図 17 (複数回答) 上段：n = (406)
下段：n = (948)



2 市民が生涯学習に取り組むために行政が支援すべきこと

市民が生涯学習に取り組むために行政が支援すべきことを聞いた（図 18）。「無料の講座や講演会の開催」（53.4%）が5割を超えて最も高く、次いで「民間のカルチャーセンターの講座やコンサートなども含めた幅広い情報提供」（39.7%）と「新しく生涯学習を始めるきっかけとなるような多彩な講座や講演会の開催」（32.7%）となっている。

図 18 （複数回答、上位 10 項目） n = (1, 407)



平成25年度第1回かわさき市民アンケート概要版 平成25年10月

発行 川崎市総務局市民情報室市民の声担当
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
電 話 044-200-2291（直通）
FAX 044-200-3919